「公共」シラバス

沖縄県立那覇西高等学校

科目	公共	単位	2	学年	1	対象学科　普通科1～6　国際人文科7.8　体育科9
使用教科書	高等学校 公共(第一学習社)			副教材等	公共ノート（第一学習社） 最新公共資料集（第一学習社）	

学習の到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点		
a．知識・技能	b．思考・判断・表現	c．主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

月	学習項目	■学習内容(ねらい)　・評価の観点	a	b	c	評価方法
	第１編　公共の扉					
4	第１章　公共的な空間をつくる私たち Ⅰ　公共的な空間と人間とのかかわり 1 社会に生きる私たち 2 個人の尊厳と自主・自律 3 多様性と共通性 4 キャリア形成と自己実現 Ⅱ　社会に参画する自立した主体として 1 伝統や文化とのかかわり	■社会に参画する自立した主体とは，孤立して生きるのではなく，地域社会などのさまざまな集団の一員として生き，他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか，自らの体験などを振り返ることを通して，自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は，個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに，対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく，地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに，異文化などの他者との協働により，人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察，表現している。 ・自分自身が，自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが，自らのキャリア形成とともに，よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・公共的な空間をつくる私たちについて，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第２章　公共的な空間における人間としてのあり方生き方 Ⅰ　人間としてのあり方生き方についての探求 1 人間と社会のあり方についての見方・考え方 2 実社会の事例から考える～環境保護	■古今東西の先人の取り組み，知恵などを踏まえ，社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに，行為者自身	○ ○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容（ねらい）　・評価の観点	a	b	c	評価方法
	3 実社会の事例から考える～生命倫理 Ⅱ　選択・判断の手がかりとなる倫理的価値 1 公共的な空間を形成するための考え方 2 よりよく生きる行為者として活動するために	の人間としてのあり方生き方について探求することが，よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。 ・倫理的価値の判断において，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，思考実験などを通して，多面的・多角的に考察，表現している。 ・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から，よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・幸福，正義，公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間でどのように生きるかについて，先哲の生き方などを参考に，人間としてのあり方生き方について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	 ○	 ○ ○	 ○	
5	第３章　公共的な空間における基本的原理 Ⅰ　自立した主体となることに向けて 1 人間の尊厳と平等 2 個人の尊重 3 民主政治の基本的原理 4 法の支配 5 自由・権利と責任・義務 Ⅱ　よりよい公共的な空間づくりをめざして 1 世界のおもな政治体制 2 日本国憲法に生きる基本的原理	■古今東西の先人の取り組み，知恵などを踏まえ，公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・人間の尊厳と平等，個人の尊重，民主主義，法の支配，自由・権利と責任・義務など，公共的な空間における基本的原理について理解している。 ・幸福，正義，公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現している。 ・個人と国家・社会との関係から，世界のおもな政治体制について，自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。 ・公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	第２編　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち					
6	第１章　法的な主体となる私たち	■憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解する。				
	主題１　法や規範の意義と役割 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために	■法やルールを定める時には，どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。 ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ，どのようにすれば公平・公正に調整できるのか，主体的なルールを作成・利用することで考察，構想，表現している。 ・法には国家と国民の間を規律する公法や，私人間を規律する私法などがあること，法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけではなく，国民の活動を積極的に促進し，紛争を解決するなど，日常生活に密接に関連していることを理解している。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を，現実社会の諸課題に関わる諸資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・法をよりよく変えていくために，自由権の意味や，社会権が私たちの生活をどのように変えたのか，新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。 ・幸福，正義，公正などに着目して考えている。 ・法や規範の意義と役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題２　契約と消費者の権利・責任 1 さまざまな契約と法 2 消費者の権利と責任	■契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・成年年齢が18歳以上となったことに対し，成年年齢の意味と成年の責任について理解している。	 ○			・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト

月	学習項目	■学習内容（ねらい）　・評価の観点	a	b	c	評価方法
		・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	○			・ノート提出 ・定期考査
		・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。	○			
		・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。		○		
		・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。		○		
		・契約と消費者の権利・責任について，現代の諸課題を具体的な例をもとに，主体的に解決しようとしている。			○	
7	主題３　司法参加の意義 1 裁判所と人権保障	■個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと，国民が果たすべき責任を理解する。				・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		・国民の権利を守り，社会秩序を維持するために，公正な裁判が保障され，法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。	○			
		・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。	○			
		・検察審査会や国民の司法参加の意義など，具体的な主題を設定し，その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。		○		
		・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。		○		
		・司法参加の意義について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			○	
9	第２章　政治的な主体となる私たち	■よりよい社会は，憲法の下，個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。				
	主題４　政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉	■民主政治を推進するために，私たちが果たすべき責任を理解する。				・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	○			
		・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ，選挙の意義や，政治的無関心の危険性などについて理解している。	○			
		・選挙のしくみ，政党の役割，世論の形成について，さまざまな情報手段を活用して，考察，構想し，表現している。		○		
		・国会の地位と構成・権限，議院内閣制のしくみ，内閣総理大臣の権限，行政の民主化について，理解している。	○			
		・地方自治には，直接民主制の考え方に基づくしくみが，国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ，地方自治の課題についても考察，構想し，表現している。		○		
		・政治参加と公正な世論形成について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			○	
	主題５　国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題	■主権国家が並び立つ国際社会は，どのように成り立っているのかを理解する。				・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
		・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。	○			
		・国際法の意義と役割について，多面的・多角的に考察，構想し，表現している。		○		
		・国際社会と国家主権について，国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために，必要な情報を収集し，考察，構想している。		○		
		・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。	○			
		・国際連合などの国際機関の役割や課題について，国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察，構想したことを，論拠をもって表現している。		○		
		・国際社会と国家主権について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			○	
10	主題６　日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障	■日本国憲法の平和主義の下，私たちが果たすべき責任を理解する。				・授業態度 ・発問評価 ・提出課題
		・日本国憲法の平和主義について理解を深めることができ	○			

月	学習項目	■学習内容（ねらい）　・評価の観点	a	b	c	評価方法
	2 核兵器の廃絶と国際平和	るように，現実社会の諸課題に関わる諸資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え，軍縮の意義や効果について，さまざまな観点から考察している。 ・日本の安全保障と防衛について，国連憲章や日米安全保障条約，平和主義を掲げる日本国憲法の下，現代の諸課題の解決に向けて，主体的に取り組もうとしている。		○ ○	○	・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題 7　国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人種・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割	■国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・人種・民族問題と地域紛争の実態，難民問題にする資料を，さまざまな情報手段を用いて収集し，課題の解決に向けて，国際社会では何がおこなわれているか，理解している。 ・変化する国際情勢の中で，日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか，広い視点に立って理解し，さまざまな観点から考察している。 ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら，国際社会の安定について，国民レベル，国家レベル，国際レベルで何ができるかを，さまざまな観点から考察し，論拠をもって表現している。 ・国際社会の変化と日本の役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
11	第 3 章　経済的な主体となる私たち	■公正かつ自由な経済活動をおこなうことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。				
	主題 8　雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題	■少子高齢化による労働力不足が問題となる中，活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。 ・仕事と生活との調和という観点から，雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え，経済的な主体となる私たちは，どのように経済活動に参加しているのか，理解している。 ・雇用と労働問題について，日本的雇用慣行の崩れなど，現代の諸課題を主体的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について，具体例をあげて多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・雇用と労働問題について，現代の諸課題を主体的に解決し，自分の将来のあり方について考えようとしている。	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	主題 9　社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから	■グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において，将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。 ・社会の変化と職業観について，人工知能の進化の影響など，現代の諸課題を理解している。 ・技術革新の進展による生活の変化，産業構造の変化，経済のサービス化・ソフト化について，身近な問題と関連させて考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・企業の役割や種類から，株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・農林水産業の現状と今後について，さまざまな情報を基に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・社会の変化と職業観について，現代の諸課題を主体的に解決し，自分の将来のあり方について考えようとしている。	○	○ ○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
12	主題 10　市場経済の機能と限界 1 市場経済と経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉	■公正で自由な経済活動を通して，市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・経済の基本的なしくみと資本主義経済，社会主義経済の特徴を理解している。 ・価格の変化が，消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか，さまざまな観点から多面的・多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を	○ ○	○		・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容（ねらい）　・評価の観点	a	b	c	評価方法
		理解している。 ・市場機能の限界に対する公共財の供給について，政府の役割を多角的に考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・外部不経済の典型例である公害について理解し，公害を防止し環境を保全するための方策について考察，構想し，論拠をもって表現している。 ・経済成長が生活に与える影響を，具体的事例をあげて考察している。 ・市場経済の機能と限界について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		○ ○ ○ ○	○	
	主題 11　金融のはたらき 1 金融の意義や役割	■経済において，金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。 ・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・資金の流れ，金融機関の役割，日本銀行の役割について理解している。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ・金融のはたらきについて，現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。	○ ○	○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
1	主題 12　財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉	■少子高齢化が進む中で，財政や社会保障を持続可能なものにするために，政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・財政政策の意義，日本の財政の課題を理解し，財政のしくみ，租税の意義と課題について，具体的に事例をあげて考察，構想し，主体的に考えている。 ・社会保障の意義を理解し，現在の社会保障の課題について考察している。 ・社会保障制度の充実・安定化に関し，各国の租税負担など財政状況を比較しながら，日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察，構想，表現している。 ・財政の役割と社会保障について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○ ○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
2	主題 13　経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易体制 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本 4 地域的経済統合の動き 5 国際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから	■経済がグローバル化する中で，貧困や格差などの問題を乗りこえ，すべての人が幸福に暮らすために，国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・グローバル化の進展により，貧困や格差の問題，地球環境問題などの解決が，地球的な課題となっていることを理解している。 ・貿易の意義，円高・円安が生じる理由，貿易摩擦などについて，考察，構想し，表現している。 ・国際経済問題の解決には，国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。 ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。 ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について，国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや，その解決に向けての取り組みを考察，構想し，表現している。 ・資源の有限性を理解しつつ，新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ，多面的・多角的に考察し，表現している。 ・国際協力のあり方，国際協調の重要性から，日本の役割について自分自身の問題として，主体的に解決しようとしている。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

月	学習項目	■学習内容（ねらい）　・評価の観点	a	b	c	評価方法
3	第３編　持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える	■持続可能な地域，国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う，公共の精神をもった自立した主体となることに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，現代の諸課題を探究する活動を行う。 ・地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述している。 ・現代の諸課題を，「第1編　公共の扉」で学んだことを基に，幸福，正義，公正や公共的な空間における基本的原理を用いて，考察，構想し，論拠をもって表現してる。 ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。		○ ○ ○	○	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・レポート作成 ・発表 ・定期考査

地理総合	単位数	２単位（70 時間）
	学科・学年・組	普通科/国際人文科　第２学年 1～8 組
使用教科書，副教材等	「高等学校新地理総合」,「新詳高等地図」,「新詳地理資料 complete2023」,「高等学校新地理総合ノート」（以上, 帝国書院）	

１　学習の到達目標

①　世界の諸課題を地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的見方・考え方を培う。

②　生活圏の諸課題を地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的見方・考え方を身につける。

２　学習の計画

週	月	学習項目	学習内容（ねらい）および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4 ｜ 5	第１部地図でとらえる現代世界 第１章地図と地理情報システム 1 節地球上の位置と時差 2 節地図の役割と種類 第 2 章結びつきを深める現代世界 1 節現代世界の国家と領域 2 節グローバル化する世界	・地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことを理解する。時差の計算問題に積極的に取り組むことで，日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 ・各図法の特徴と欠点を，知識として身につける。地球儀と世界地図を用いて，球面を平面に表現する際の特徴と問題点を考えることができる。 ・地図の縮尺や方位に注意しながら，地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 ・インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし，日常的に使われている GNSS や GIS など，新しい地図表現の役割を理解する。 ・現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに，日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか，理解する。 ・グローバル化の中で，人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や，国家的結びつきの変化に気づき，自国の利益などを考えて結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく，それらがどのように地域を結びつけ，変化させているかを地図から考えることができる。 ・インターネットショッピングを事例に，情報技術や物流，金融など，さまざまなサービスがかかわってくることを，実体験とともに考える。 ・貿易の拡大に伴い専用船の開発・普及が進み，コールドチェーンの整備により人々の生活が豊かになっていることを，具体的な実体験を通して理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ファイル提出 ・ノート提出 ・定期考査
	5 ｜ 6	２節　国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	・現代世界を構成する基本単位の国家とは何かを理解し，交通・通信の発達によって，生活，社会，産業，国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・さまざまな情報手段を用いて，現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに，日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか，理解する。 ・グローバル化の中で，人・「モノ」・資本の国際移動の複雑化や，国家的結びつきの変化に気づき，国家が自国の利益などのために結んでいる国際機関の変遷を学習する。 ・単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく，それらがどのように地域を結びつけ，変化させているかを地図から考えることができる。 ・インターネットショッピングを事例に，情報技術や物流，金融など，さまざまなサービスがかかわってくることを，実体験とともに考える。 ・貿易の拡大に伴い専用船の開発・普及が進み，コールドチェーンの整備により人々の生活が豊かになっていることを，具体的な実体験を通して理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・ファイル提出 ・ノート提出 ・定期考査

４　評価の方法

⑴ 評価の観点

評価は学習で身に付ける力を次の三つの観点から把握するようにします。

知識・技能	○地理に関わる諸事象に関して，世界の生活文化の多様性や，防災，地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 ○地図や地理情報システムなどを用いて，調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	○地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，位置や分布，場所，人間と自然環境との相互依存関係，空間的相互依存作用，地域などに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また，粘り強い取り組みを行う中で，自らの学習を調整しようとしている。 ○地理に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土に対する愛情，世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などが深まっている。

⑵ 評価の時期と方法

ア　年５回の定期考査では，ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能（以下知識・技能）の習得の状況，思考・判断・表現を評価します。

イ　「ファイル提出」や「準拠ノート」・「白地図ワーク」は主に知識・技能及び思考・判断・表現を、定期的に配信される課題では主に主体性を評価します。

ウ　学習活動の様子や発表，討論，論述などの内容を評価のための資料とします。

エ　授業に対する自己評価や振り返りを記入したワークシートを参考とします。

⑷ 評定について

評定は，上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。

様式 1

令和５年度　歴史総合　シラバス

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
歴　史　総　合	2	2	必　修	普通科 国際人文科 体育科	

１．科目概要および目標

空間的な広がりや自己との関係性を意識した学習へと視野を広げさせる。現代に生きる生徒が過去の事象を考察するために、資料を活用する学習を通して、歴史の叙述には、諸資料の検証と論理性などが求められることに気づかせる。

【知識・技能】私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解している。

【思考・判断・表現】近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し､表現している。複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、表現している。

【学びに向かう力・人間性】中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。

２．成績評価

定期テスト、単元テスト、レポートやノートワークシートの提出・内容、出欠状況、授業態度などを考慮して三観点別に評価し、最終的に総合的評価を行う。

【知識・技能】→ 定期テスト、単元テストを中心に評価する。

【思考・判断・表現】→ 定期テスト、単元テスト、授業中の発表やレポートの内容などを中心に評価する。

【学びに向かう力・人間性など】→ ノートやワークシートの記述内容、提出状況、グループワークでの活動など総合的に評価する。

なお、各観点の評価の比率は１：１：１とする。

３．使用教科書・教材

教科書：歴史総合　　実教出版株式会社

副教材：演習ノート歴史総合　　実教出版株式会社

４．授業の展開と形態

基本的には講義形式の授業を中心とし、必要に応じてペア・グループによる考察や発表を取り入れる。視聴覚教材を積極的に活用し、その時代の理解を深める。しっかりとした知識を身につけたうえで、過去の歴史的事象と現代のつながりや現代の諸課題について、自ら考える態度を育成することに主眼を置く。

５．学習方法

教科書を中心に基本的な知識を修得することが第一。ペア・グループ学習を通して歴史的事象や現代とのつながりの見方・考え方を身につける。教科書、演習ノートでの学習を基本とするが、必要な場合にはワークシートを作成し、配布する。

「社会セミナー」シラバス

沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
社会セミナー	2	3	選択	普通科 国際人文科 体育科	

１．科目概要および目標

１・２年次における地歴公民科目の知識を生かし、進学へ向けての応用的な学力を養う。その際、単なる既得知識の復習を目的とした学習を行うだけではなく小論文指導を通して読解力を身につける取り組みを行う。

２．成績評価

定期考査は原則的に行わない。普段の授業における学習態度や小論文等の提出物、面接の学習など、授業から修得した課題解決能力を総合的に評価する。また、ニュース時事能力検定など、社会科科目関係の検定受検も含めて考慮する。

提出物　　８０　　％	授業態度　１０％	その他　　１０　％

３．使用教科書・教材

小論文資料・課題

地歴公民科目の教科書・副教材

新聞記事

４．授業の展開と形態

各人における自学・自習を中心に進めていく。教師は、教材の提供および添削、学習の解説という役割を担い、生徒の積極的な学習を支援する。小論文対策や発表形式の授業の時は、各生徒の地歴科目に関する知識や考察を、より発揮できるように工夫しながら取り組む。

５．学習方法

１・２学年時における地歴科目の知識はもちろん、普段の生活においての様々な情報や体験は社会科的な要素をふんだんに含んでいる。また、授業における学習だけでは、地歴科目に関する応用力や課題解決能力は育成されない。従って、生活する中で接する情報源、例えば新聞やニュースなどに関心を持ち、社会科的な視点で考察する習慣を身につけ、また、授業においてそれが活用されるように取り組んでほしい。

６．履修上の留意点

科目選択をする際考慮すべき事項

応用的・発展的な学習が要求されるため、地歴科目の基礎・基本を身につけておく必要がある。また、社会にあふれている様々な情報に目を配り、社会科的な視点で世の中を見る習慣を形成する。

「現代社会」シラバス

沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学　年	必修・選択	対 象 学 科	備　考
現代社会	2	3	必修	体育科	

１．科目概要および目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方行き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

２．成績評価

授業態度、発問評価、定期テスト、単元テスト、練習問題、レポートやノートの提出、出欠状況、などを考慮して総合的に評価する。

定期テスト　　６０～７０ ％	その他テスト等　２０ ％	授業・提出物　　１０～２０ ％

３．使用教科書・教材

教科書：『高等学校　　新現代社会』（第一学習社）

副読本：『テーマ別資料　クローズアップ 現代社会　２０２３』（第一学習社）

『新現代社会ノート』（第一学習社）

４．授業の展開と形態

講義形式に加え、グループでの議論や発表を適宜取り入れる。予習として、事前に教科書の該当部分を読み、何が扱われるかを把握した上で授業に臨んでほしい。また、討論では、自らを主張するのみではなく、周囲の意見に傾聴し、協働によって新たな知や理解を生み出すように努めたい。

５．学習方法

教科書を中心に基本的な知識を理解することが第一である。関連した項目を様々なメディアで収集・選択し、学習を深める。世界全体を視野に入れて社会的事象を総合的・包括的に把握し、多面的・多角的に考察する。単に知識の習得で終わらずに、各自のあり方や生き方と良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

６．履修上の留意点

①普段からメディアを通してニュースなどに関心を持ち、社会事情を身近にとらえるように努める。

②入試の面接や小論文の際に問われることの多いテーマを豊富に含んでいる。進路決定の一助とするためにも真剣に取り組むことが求められる。

年　間　授　業　計　画

月	編	節	単　　元	配時	ﾏｰｸ欄
４月	＜第１編＞ 現代に生きる私たちの課題	１．環境と私たちの生活	１．かけがえのない地球 ２．むしばまれる地球の環境（１） ３．むしばまれる地球の環境（２） ４．私たちの地球を守るために	1 1 1 1	／
		２．資源・エネルギー問題と私たちの生活	１．限りある資源 ２．資源問題の解決をめざして	1 1	
５月		３．科学技術の発達と私たちの生命	１．科学技術の発達と生命 ２．生命倫理をめぐる問題	1 1	
		４．高度情報社会と私たちの生活	１．情報の高度化の進展 ２．高度情報社会の課題 ◎定期考査（中間）	1 1	
	＜第２編＞ 現代の社会と人間としてのあり方生き方	１．青年期と自己の形成	１．青年期とは ２．青年期を充実させるために ３．自立に向けて ４．伝統や文化とのかかわり ５．社会とのかかわり ６．私たちの生きがい	1 1 1 1 1 1	
６月		２．個人の尊厳と法の支配	１．個人と国家 ２．基本的人権と法の支配 ３．世界の政治体制 ◎定期考査（期末）	1 1 1	
７月		３．現代の民主政治と政治参加の意義	１．日本国憲法の基本原理 ２．平和主義と日本の安全保障 ３．冷戦終結後の防衛問題 ４．平和に生きる権利と自由に生きる権利 ５．豊かに生きる権利 ６．新しい人権 ７．基本的人権と公共の福祉	1 1 1 1 1 1 1	
９月			８．国会の運営と権限 ９．内閣と行政の民主化 10．裁判所と人権保障 11．法と私たちの生活 12．地方自治と住民の福祉 13．選挙制度の現状と課題 14．世論の形成と政治参加	1 1 1 1 1 1 1	

10月		４．国際経済の動向と日本の役割	１．国家主権と国際法	1	
			２．国際連合の役割	1	
			３．第二次世界大戦後の国際社会	1	
			４．冷戦終結後の国際社会	1	
			５．核兵器の廃絶と国際平和	1	
			◎定期考査（中間）		
			６．地域紛争と人種・民族問題	1	
			７．国境と領土問題	1	
			８．日本の役割と私たちの生き方	1	
11月		５．現代の経済社会と私たちの生活	１．経済と私たちの生活	1	
			２．経済体制の変容	1	
			３．現代の企業	1	
			４．市場のしくみ	1	
			５．経済成長と景気変動	1	
			６．財政のしくみと税金	1	
			７．金融機関のはたらき	1	
			８．戦後日本経済のあゆみ	1	
			９．日本経済の現状と展望		
			10．技術革新の進展と産業構造の変化	1	
			◎定期考査（期末）		
12月			11．中小企業の現状と役割	1	
			12．食の安全とこれからの日本の農業	1	
			13．雇用と労働問題	1	
			14．労働環境の整備	1	
			15．公害の防止から環境保全へ	1	
			16．消費者問題と消費者主権	1	
			17．社会保障と福祉国家	1	
			18．これからの社会保障	1	
１月		６．国際経済の動向と日本の役割	１．国際分業と貿易	1	
			２．国際経済体制のあゆみ	1	
			３．国際収支と為替相場	1	
			４．国際経済の動向	1	
			５．進む地域的経済統合		
			６．発展途上国の経済と南北問題	1	
			７．国際社会のこれから	1	
			◎定期考査（学年末）		
		７．民主社会に生きる倫理	１．豊かな人生を求めて	1	
			２．日本の伝統的な考え方	1	
			３．近代の西洋社会に見られる考え方	1	
２月			４．近代市民社会から大衆社会へ	1	
			５．他者とともに生きる		
			６．豊かな社会の実現に向けて	1	
	＜第３編＞	ケーススタディ	１．社会保障と消費税	1	
			２．クジラは野生保護動物か、水産資源が		

政治・経済シラバス

沖縄県立那覇西高等学校

科　目　名	単位数	学　年	必修・選択	対 象 学 科	備　考
政治・経済	2	3	必修	普通科・国際人文科	新課程

1. 学習の到達目標

①民主主義の本質について、身近な経験を基盤にして理論的・体系的に理解を深める。

②日本国憲法の基本原理や日本の政治機構などについて理解し、現代の政治の諸課題について具体的に考察する。また、現実の社会における法の機能について学び、「法の支配」の観念や人権保障のあり方について考察する。

③現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに、国民経済の動向および，政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察します。

④国際社会の現状と諸課題について理解し、国際社会に生きる日本の役割について考察します。

⑤様々な課題について、他人の意見を尊重しつつ自らの考えを述べ、新たな知見を得てそれを発表するという学習活動を通して、社会の主体的な形成者としての自覚を育む。

2. 使用教科書・教材

教科書：『政治・経済』（東京書籍）

副教材：『政治・経済ワークノート』（東京書籍）

『最新図説　政経』（浜島書店）

3. 学習の計画

月	章	節	単元	時
4	第 1 章　現代の政治	1 節　民主政治の基本原理	①民主政治の成立	1
			②法の支配	1
			③基本的人権の確立	1
			④現代の民主政治	1
5			⑤世界のおもな政治体制	1
		2 節　日本国憲法の基本原理	①日本国憲法の制定と基本原理	2
			②基本的人権の保障	2
			③平和主義	1
		3 節　日本の政治機構	①国会と立法	1
6			②内閣と行政	1
			③裁判所と司法	2
			④地方自治	1
		4 節　現代政治の特質と課題	①戦後政治と政党	1
月	章	節	単元	時

6			②選挙と政治意識	1
			③世論と政治参加	1
		5 節　現代の国際政治	①国際関係と国際法	1
7			②国際社会の組織化と変容	1
			③国際政治の動向	2
			④国際政治の課題	2
9			⑤地球環境と資源・ｴﾈﾙｷﾞｰ問題	1
			⑥地球市民社会における日本の役割	1
	第 2 章　現代の経済	1 節　現代の資本主義経済	①資本主義体制の成立と発展	2
			②現代経済の特質	1
		2 節　現代経済のしくみ	①経済主体と経済の循環	1
			②生産のしくみと企業	1
			③市場経済の機能と限界	1
10			④国民所得と経済成長	1
			⑤金融のしくみと機能	2
			⑥財政のしくみと機能	2
		3 節　日本経済の発展と産業構造の変化	①経済再建から高度成長へ	1
			②オイルショック後の日本経済	1
11			③日本経済の現状	1
		4 節　福祉社会と日本経済の課題	①公害と環境保全	1
			②消費者問題	1
			③農業・食料問題	1
			④中小企業の現状と課題	1
			⑤雇用と労働問題	2
			⑥社会保障と福祉	1
12		5 節　国民経済と国際経済	①貿易と国際収支	1
			②経済対立と国際協調	1
			③発展途上国の経済	1
			④地域主義の動き	1
			⑤グローバル化する世界経済	1
1	第 3 章　現代社会の諸課題	1 節　日本社会の諸課題	①少子高齢社会において社会保障はどうあるべきか？	2
			②地域社会を活性化するにはどうすればよいか？	2
			③どのようにして若者の労働環境を改善するか？	2
			④中小企業の活路はどこに？	2
2			⑤どうする？　日本の「食」と「農」	2
		2 節　国際社会の諸課題	①地球環境にやさしいｴﾈﾙｷﾞｰをどう確保するか？	2
			②経済援助は貧困を削減できるか？	2
			③パレスチナ問題とは何か？	2
			④地球市民社会でなすべきことは？	2

4.　評価の方法

①評価の観点

評価は学習で身につける力を次の四つの観点から把握するようにします。

関心・意欲・態度	○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち，意欲的に探究しようとしているか。 ○社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか。 ○国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加，協力する態度を身につけているか。
思考・判断・表現	○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題，人間にかかわる諸課題を考察し，それらの本質や特質，さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的，多角的に考察しているか。 ○社会の変化やさまざまな立場，考え方があることを理解した上で公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。
資料活用の技能	○現代の政治，経済，社会，国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し，有用な情報を適切に選択・活用することができるか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し，社会の諸問題を探究する学び方を身につけているか。
知識・理解	○現代の政治，経済，社会，国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的，総合的に理解し，その知識を身につけているか。

②評価の方法

＊定期考査

＊通常の学習活動に取り組む態度や発表・討論の様子（ファイル提出や自己評価シートなど）

＊課題探究学習の際や長期休業中などに課すレポート

様式１

「倫理」シラバス

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
倫理	２	３	必修	人文科	

１．科目概要および目標

国際化、情報化、科学技術の発展、少子高齢化の進展で社会の状況が大きく変化する中で２１世紀　を生きる人材を活かし、豊かな人間性をはぐくむとともに、一人ひとりの個性を生かしその能力を十分に伸ばす新しい時代への適応の在り方が問われている。そこで、２１世紀は、テロや戦争など今尚、続いているためそこには、宗教や、人種、民族の違い、差別にも深くかかわっていることを認識し、文化の受容とグローバルな視野を取り入れることが今後の課題であり目標であると考えられよう。

２．成績評価

基本的には、中間・期末テストなどの各１００点で評価する。しかし、その他にも授業態度、レポート、ファイル、ノートの提出など普段の提出状況なども考慮に入れて評価する。

定期テスト　　７５　　％	その他テスト等　　５％	授業・提出物　　２０　　％

３．使用教科書・教材

・教科書　高等学校　改訂版　倫理（第一学習社）
・資料集　最新図説　倫理（浜島書店）
・ノート　改訂版　倫理ノート（第一学習社）

４．授業の展開と形態

まずは、基本的な事項を、教科書から読み取り、ノートの穴埋めに重要な語句を入れて理解することから始まり、特に倫理という教科は、青年期から始まり、偉人の言葉、理論、宗教などさまざまなものが出てくるため、興味をもつことから始まる。それから現在の世界情勢について考えたり、社会問題を問うための一つのキーワードを得ることにもなる。

５．学習方法

教科書、生い立ちを知るための重要な語句を知るための資料集、そして、教科書を把握するために　倫理整理ノートを使用することで重要な部分を把握することができるであろう。また、ノートでの穴埋めをするための基本的事項が第一であるが、教師が共通テスト・私大に適応した問題を頭に入れて教えることも必要不可欠になってくると思われる。しかし、そこには、楽しく、単に暗記ではなく、理解することで力がついてくると思われる。

６．履修上の留意点

(1)科目選択をする際考慮すべき事項

重要な人物、そして、その人が言った言葉など、身近な生活とあわせながら理解する必要性を感じる。何らかのことについて考えるという姿勢をもち、現在、起こっている事柄、世界情勢、社会問題と照らし合わせることで、倫理的な問題も浮かび上がってくるであろう。しかし、実際には、授業は教科書を中心に進めていくため、医学的な倫理的問題、例えば、代理母、尊厳死、安楽死、臓器移植、そして、戦争、テロに見られるような宗教的、民族的問題まで発展できる授業づくりができれば、問題意識が芽生えてくると考えられる。単に倫理という科目は履修上、暗記科目としてとらえられるものではない。

(2)就職・進学試験等と関連しての注意事項

高卒の一般常識、または公務員試験にも出てくるため必須な科目だといえる。また、共通テストでの高得点を取れる可能性もあり、そして、私大では、その私大特有な試験内容のため傾向と対策を立てる必要が出てくると思われる。

様式２

年間授業計画

那覇西高等学校

月	章	節	単　　元	配時	ﾏｰｸ欄
4月			オリエンテーション	1	／
	＜第１章＞ 青年期の課題と自己形成	１．よく生きることを求めて ２．青年期の課題	①人間とは何か ②青年期の思考と感情 ③青年期の人間関係 ④青年期の自己形成	1 1 1 1	
5月	＜第２章＞ 人間としての自覚	１．ギリシャの思想 ２．キリスト教 ３．イスラーム教 ４．仏教	①哲学の形成②ソクラテス③プラトン④アリストテレス⑤ギリシャ思想の展開 ①ユダヤ教の世界②イエス③キリスト教の発展 ①イスラーム ①インドの思想文化②ゴータマの教説③仏教思想の展開	3 3 1 3	
		５．中国の思想	◎定期考査(中間) ①中国の思想文化②儒家の思想③道家の思想	3	
6月	＜第３章＞ 国際社会に生きる日本人としての自覚	１．日本の風土と伝統 ２．外来思想の受容 ３．町人意識のめざめと庶民思想	①日本仏教の展開②日本儒学の展開 ①義理と人情②国学の成立③庶民の思想④伝統思想の成熟	2 2	
		４．西洋思想との出会い	①幕末の思想②明治の啓蒙思想③日本社会とキリスト教④近代的自我の確立⑤社会思想の展開⑥近代日本の思想課題	6	
7月			◎定期考査（期末）		
	＜第４章＞ 現代を生きる人間の倫理	１．人間の尊厳	①ルネサンスと宗教改革 ②人間性の探究	2 1	
9月	＜第４章＞ 現代を生きる人間の倫理	２．近代の科学革命と自然観	①近代の科学革命 ②経験論と合理論 ③近代科学と社会の進歩	1 2 1	
10月		３．自由で平等な社会の実現	①社会契約の思想 ②人格の尊厳と自由ーカント ③人倫と自由の実現ーヘーゲル ④功利主義の思想	1 1 1 1	
			◎定期考査（中間）		
11月		４．人間性の回復と主体性の確立	①社会主義の思想 ②実存主義の思想 ③プラグマティズムの思想	1 2 1	
		５．現代の思想と人間像	①心の深層と無意識 ②生の哲学と現象学 ③近代的理性と言語 ④正義と社会 ⑤他者と偏見	1 1 1 1 1	
			◎定期考査（期末）		
12月		６．生命への畏敬と社会参加	①生命への畏敬と社会参加	3	

1月	＜第５章＞現代の課題と倫理	１．生命の問題と倫理課題 ２．環境の問題と倫理課題 ３．家族･地域社会と倫理課題 ４．情報社会と倫理課題	①生殖医療と遺伝子操作②脳死臓器移植と再生医療③自己決定の尊重と末期医療 ①有限な地球環境②生物多様性と自然との共生③予防原則と世代間倫理 ①少子化と男女共同参画社会②高齢化と地域社会 ①情報の洪水と情報リテラシー②ネットワーク社会と情報モラル	1 1 1 1	
			◎定期考査（期末）		
2月		５．宗教・文化と倫理課題 ６．国際平和と人類の福祉	①宗教信仰への理解と現代世界②異文化理解と多文化共生 ①地球市民として②平和な世界に向けて	1 1	

様式３

評価の観点、内容及び評価方法

学期	評価の観点	内容	評価方法
1	関心・意欲・態度	深い内省に基づいた自分自身との対話とともに、先哲の思想にも耳を傾け、理解しようとする態度がある。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めようとしている。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	図版・写真の伝える意図を十分に理解するとともに、自らの考えをまとめることができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	生涯において青年期がもつ意義や先哲の思想を理解している。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		
2	関心・意欲・態度	21世紀に生きる者としてのあるべき人間像や社会のあり方を自ら考える問題意識を培う。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	各思想家が提言した倫理について、現在の人間観や社会状況からどのように評価できるのかを考察する。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	図版・写真の伝える意図を十分に理解するとともに、自らの考えをまとめることができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	近代思想がどのように展開され、各思想家がどのような倫理を提言したのか理解している。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		
3	関心・意欲・態度	現代社会の課題解決に向けて深く考え、現代に生きる姿勢を身につけている。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めることができる。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	簡単なレポートを書いたり、プレゼンテーションなどができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	現代社会の特質への理解を深めるとともに、人間と社会との関わりについて考えることができる。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		

様式１

「倫理」シラバス

科　目　名	単位数	学年	必修・選択	対象学科	備考
倫理	２	３	必修	普通科	

１．科目概要および目標

国際化、情報化、科学技術の発展、少子高齢化の進展で社会の状況が大きく変化する中で２１世紀　を生きる人材を活かし、豊かな人間性をはぐくむとともに、一人ひとりの個性を生かしその能力を十分に伸ばす新しい時代への適応の在り方が問われている。そこで、２１世紀は、テロや戦争など今尚、続いているためそこには、宗教や、人種、民族の違い、差別にも深くかかわっていることを認識し、文化の受容とグローバルな視野を取り入れることが今後の課題であり目標であると考えられよう。

２．成績評価

基本的には、中間・期末テストなどの各１００点で評価する。しかし、その他にも授業態度、レポート、ファイル、ノートの提出など普段の提出状況なども考慮に入れて評価する。

定期テスト　　７５　　％	その他テスト等　　５％	授業・提出物　　２０　　％

３．使用教科書・教材

・教科書　高等学校　改訂版　倫理（第一学習社）
・資料集　最新図説　倫理（浜島書店）
・ノート　改訂版　倫理ノート（第一学習社）

４．授業の展開と形態

まずは、基本的な事項を、教科書から読み取り、ノートの穴埋めに重要な語句を入れて理解することから始まり、特に倫理という教科は、青年期から始まり、偉人の言葉、理論、宗教などさまざまなものが出てくるため、興味をもつことから始まる。それから現在の世界情勢について考えたり、社会問題を問うための一つのキーワードを得ることにもなる。

５．学習方法

教科書、生い立ちを知るための重要な語句を知るための資料集、そして、教科書を把握するために　倫理整理ノートを使用することで重要な部分を把握することができるであろう。また、ノートでの穴埋めをするための基本的事項が第一であるが、教師が共通テスト・私大に適応した問題を頭に入れて教えることも必要不可欠になってくると思われる。しかし、そこには、楽しく、単に暗記ではなく、理解することで力がついてくると思われる。

６．履修上の留意点

(1)科目選択をする際考慮すべき事項

重要な人物、そして、その人が言った言葉など、身近な生活とあわせながら理解する必要性を感じる。何らかのことについて考えるという姿勢をもち、現在、起こっている事柄、世界情勢、社会問題と照らし合わせることで、倫理的な問題も浮かび上がってくるであろう。しかし、実際には、授業は教科書を中心に進めていくため、医学的な倫理的問題、例えば、代理母、尊厳死、安楽死、臓器移植、そして、戦争、テロに見られるような宗教的、民族的問題まで発展できる授業づくりができれば、問題意識が芽生えてくると考えられる。単に倫理という科目は履修上、暗記科目としてとらえられるものではない。

(2)就職・進学試験等と関連しての注意事項

高卒の一般常識、または公務員試験にも出てくるため必須な科目だといえる。また、共通テストでの高得点を取れる可能性もあり、そして、私大では、その私大特有な試験内容のため傾向と対策を立てる必要が出てくると思われる。

様式２

年間授業計画

那覇西高等学校

月	章	節	単　　元	配時	ﾏｰｸ欄
4月			オリエンテーション	1	／
	＜第１章＞ 青年期の課題と自己形成	１．よく生きることを求めて ２．青年期の課題	①人間とは何か ②青年期の思考と感情 ③青年期の人間関係 ④青年期の自己形成	1 1 1 1	
5月	＜第２章＞ 人間としての自覚	１．ギリシャの思想 ２．キリスト教 ３．イスラーム教 ４．仏教	①哲学の形成②ソクラテス③プラトン④アリストテレス⑤ギリシャ思想の展開 ①ユダヤ教の世界②イエス③キリスト教の発展 ①イスラーム ①インドの思想文化②ゴータマの教説③仏教思想の展開	3 3 1 3	
		５．中国の思想	◎定期考査(中間) ①中国の思想文化②儒家の思想③道家の思想	3	
6月	＜第３章＞ 国際社会に生きる日本人としての自覚	１．日本の風土と伝統 ２．外来思想の受容 ３．町人意識のめざめと庶民思想	①日本仏教の展開②日本儒学の展開 ①義理と人情②国学の成立③庶民の思想④伝統思想の成熟	2 2	
		４．西洋思想との出会い	①幕末の思想②明治の啓蒙思想③日本社会とキリスト教④近代的自我の確立⑤社会思想の展開⑥近代日本の思想課題	6	
7月			◎定期考査（期末）		
	＜第４章＞ 現代を生きる人間の倫理	１．人間の尊厳	①ルネサンスと宗教改革 ②人間性の探究	2 1	
9月	＜第４章＞ 現代を生きる人間の倫理	２．近代の科学革命と自然観	①近代の科学革命 ②経験論と合理論 ③近代科学と社会の進歩	1 2 1	
10月		３．自由で平等な社会の実現	①社会契約の思想 ②人格の尊厳と自由ーカント ③人倫と自由の実現ーヘーゲル ④功利主義の思想	1 1 1 1	
			◎定期考査（中間）		
11月		４．人間性の回復と主体性の確立	①社会主義の思想 ②実存主義の思想 ③プラグマティズムの思想	1 2 1	
		５．現代の思想と人間像	①心の深層と無意識 ②生の哲学と現象学 ③近代的理性と言語 ④正義と社会 ⑤他者と偏見	1 1 1 1 1	
			◎定期考査（期末）		
12月		６．生命への畏敬と社会参加	①生命への畏敬と社会参加	3	

1月	＜第５章＞現代の課題と倫理	１．生命の問題と倫理課題 ２．環境の問題と倫理課題 ３．家族･地域社会と倫理課題 ４．情報社会と倫理課題	①生殖医療と遺伝子操作②脳死臓器移植と再生医療③自己決定の尊重と末期医療 ①有限な地球環境②生物多様性と自然との共生③予防原則と世代間倫理 ①少子化と男女共同参画社会②高齢化と地域社会 ①情報の洪水と情報リテラシー②ネットワーク社会と情報モラル	1 1 1 1	
			◎定期考査（期末）		
2月		５．宗教・文化と倫理課題 ６．国際平和と人類の福祉	①宗教信仰への理解と現代世界②異文化理解と多文化共生 ①地球市民として②平和な世界に向けて	1 1	

様式３

評価の観点、内容及び評価方法

学期	評価の観点	内容	評価方法
1	関心・意欲・態度	深い内省に基づいた自分自身との対話とともに、先哲の思想にも耳を傾け、理解しようとする態度がある。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めようとしている。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	図版・写真の伝える意図を十分に理解するとともに、自らの考えをまとめることができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	生涯において青年期がもつ意義や先哲の思想を理解している。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		
2	関心・意欲・態度	21世紀に生きる者としてのあるべき人間像や社会のあり方を自ら考える問題意識を培う。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	各思想家が提言した倫理について、現在の人間観や社会状況からどのように評価できるのかを考察する。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	図版・写真の伝える意図を十分に理解するとともに、自らの考えをまとめることができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	近代思想がどのように展開され、各思想家がどのような倫理を提言したのか理解している。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		
3	関心・意欲・態度	現代社会の課題解決に向けて深く考え、現代に生きる姿勢を身につけている。	定期テストや提出物による評価
	思考・判断	現代に生きる人間の倫理的な課題について思索を深めることができる。	定期テストや提出物による評価
	技能・表現	簡単なレポートを書いたり、プレゼンテーションなどができる。	定期テストや提出物による評価
	知識・理解	現代社会の特質への理解を深めるとともに、人間と社会との関わりについて考えることができる。	定期テストや提出物による評価
	定期テスト80%　その他テスト等10%　授業・提出物10%		